

今月のメッセージ (2013年6月)

日本銀行富山事務所長
佐子 裕厚

福光新道あさがお通り

「謙三さんは清廉潔白そのもので、自然と回りに人が集まってきたものです」。遠くを見つめるように目を細めながら、老好爺が語ってくださいました。

ゴールデンウィークの一日、好天气に誘われて、県西部の福光という町を訪ねました。山頂にまだ雪が残る山々に新緑と美しい川。ドジョウの蒲焼でも有名なこの町は、江戸時代初期に造られ、交通の要衝として発展し、明治時代は稲作と養蚕で栄えました。

明治時代中期の1880年代に3人の偉人が軒を接するような近くの家で生まれました。一人は松村秀太郎(1888~1971)。東京美術学校卒の陶芸家。もう一人は小松製作所(現コマツ)の社長も務めた財界人の河合良成(1886-1970)。そして最後の一人は日中友好に尽くした政治家の松村謙三(1883-1971)。

現在、日本と中国の貿易額は3,030億ドルに達し、お互いに貿易相手国として重要になっています¹、日本の対外直接投資先としても中国は重要²です。

いずれ中国のGDPが米国を抜いて世界第1位になるとの予測があります。外交的な問題や中国での労賃上昇などから「チャイナ・プラス・ワン」を模索する日本の企業が増えてきたとの報道もありますが、いずれにせよ、日本にとって中国は重要な市場であり続け、中国にとっても日本は多くの雇用を生み出す重要なパートナーであり続けると思います。

松村謙三自身は日中国交回復の前年に亡くなってしまいましたが、日本と中国が現在のように経済的な結びつきを深めるようになったのには、こうした先人達の努力がベースにあるのは確かだと思います。今では富山の企業も多くが中国に工場や営業所を持っています。

3人の生家跡はお宮さん近くの小道にあります。「新道あさがお通り」と呼ばれるこの小道には、麴屋さん、おかき屋さん、薬局などが軒を並べています。

おかき屋さんに飛び込んでおかきを2袋買いました。「町歩きですか。ゆっくり見て行って下さいね。」女将さんが優しく声を掛けてくれました。

この町の優しさが偉人を育むゆりかごの役割を果たしたのかもしれない。

以 上

¹ IMF調べ。2010年。中国は日本の貿易相手国として輸出入とも第1位。日本は中国の輸出の相手国の第2位、輸入の相手国の第1位です。

² 経済産業省「海外事業活動基本調査」によれば、2010年末の海外直接投資先の第1位は中国向け(29.9%)であり、5,565社の日系企業が中国で活動し、160万人の現地雇用を産み出しています。